

旧小千谷総合病院跡地整備事業に関するPFI事業者選定委員会（第2回）  
議事概要

1. 開催日時及び開催場所

日 時：平成31年2月18日（月）9:30～正午

場 所：小千谷市役所4階大会議室

2. 出席委員

委員長：澤田 雅浩（兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科 准教授）

委 員：平賀 研也（県立長野図書館 館長）

委 員：津村 泰範（長岡造形大学 造形学部 建築・環境デザイン学科 准教授）

委 員：大塚 良夫（小千谷市 副市長） ※任期：平成30年12月22日～

※委員：松井周之輔（小千谷市 教育長）は欠席

3. 議題

- ・第1回委員会内容の確認
- ・事業実施方針公表に向けた資料に関する協議
- ・今後のスケジュール

4. 主な意見等

（施設のあり方について）

- ・市民がデジタル情報も含めた様々な情報に触れられる場、その情報を活用し、様々な活動、学び等を実践していく拠点等としての機能が求められる。
- ・「市民活動の育成」という目線ではなく、市民が主体的に施設にかかわり、施設が提供する機能やきっかけによって、新しいつながりが生まれていくことを目指すことが重要。
- ・各機能が相互関連的にオープンなつながりを持つことにより、施設の魅力も増す。
- ・自宅と職場以外のサードプレイスとしての機能も求められる。

（パートナーシップの構築について）

- ・PFI事業の趣旨を踏まえると、行政と事業者は上下関係ではなく、パートナーとして対等に連携するべき。よりよい施設のあり方を協力して模索できる形とすることが重要。
- ・長期の運営業務の中で、需要に合わせて官民の協働によって施設を育てていくようなビジョンを持ち、実現できるような提案を求めたい。
- ・利用者である市民もまた、「お客様」ではなく、本施設をつくる参画主体である。市民が自ら関わりあいや賑わいを生みだせる施設であると周知し、使い方を一緒に考えるべき。運営の方向性について事業者や市民と相談しながら決められるようにしておく等の配慮が必要となる。

(具体的な施設機能について)

- ・屋根付き屋外広場についても、不足する機能の補完に留まらず、どのように使われることを期待する空間・機能であるか、市のイメージやビジョンを示すとよい。
- ・旧来仕様の視聴覚室や会議室は情報の形やプログラム、使い方が変わると使いにくくなる。市民協働やニーズに合わせて後から使い方をアレンジできる余地があるとよい。
- ・図書館資料にどの程度 ICT 資料を含むか。デジタル資料や双方向性のある展示の活用についても、「サイネージ等」のような個別のツールへの要求だけでなくデジタル資料を活用し実現したいイメージを示したほうがよい。
- ・情報資産をデジタル形式で共有・表示し、体験・学習できること等を求めるべき。
- ・PC よりタブレット端末のほうが安価で、体験型の学び等を柔軟に検討しやすくなる。

(運営体制等について)

- ・全体を統括し、企画や市民協働の取組みを積極的に展開していく立場のスタッフが必要。
- ・市の学校図書館には司書は配置されていない。小学生向けの探究的学習などについて積極的に連携してほしい。

以上